

Firebird から抽出したデータを Excel に出力する

Firebird to Excel

Version 1.0.0

利用マニュアル

TECH-BEE

サポートメールアドレス tech-bee@mail.goo.ne.jp

ご意見・ご要望: <http://techbee.blog14.fc2.com/blog-entry-76.ht>

改定履歴

版	公開日	Version	摘要
第1版	2011/01/23	1.0.0	初版公開

目次

はじめに	1
準備	2
利用方法	3

はじめに

当プログラムは、Firebird から抽出したデータを Excel に出力する事を目的に開発しました。

プログラム開発時のSQLのデバッグ、および定常業務を行うためのシステムをごく短期間で開発することにお役立てください

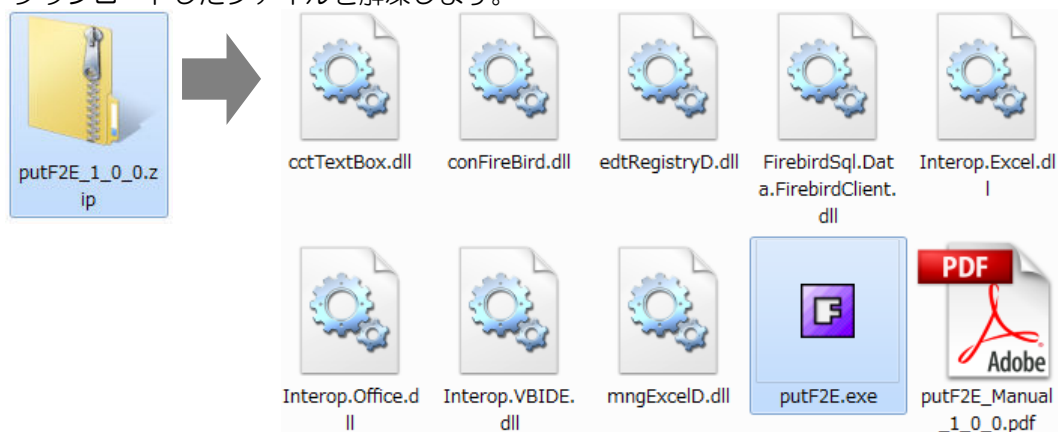
準備

1 動作環境

- ・ 対応PC Windows XP SP3, Vista, 7 が動作する PC/AT互換機
- ・ 環境 .NetFramework4.0 以上

2 ファイル配置

- ・ ダウンロードしたファイルを解凍します。



解凍した内容は次のとおり

- putF2E.exe
当プログラム本体
- FirebirdSql.Data.FirebirdClient.dll
Firebird 提供の Firebird .NET Data Provider
- conFirebird.dll
Firebird 接続用 dll
- その他 dll
各種 dll
- putF2E_Manual_1_0_0.pdf
本マニュアルファイル

- ・ インストールは必要ありませんので、任意のディレクトリに配置してください

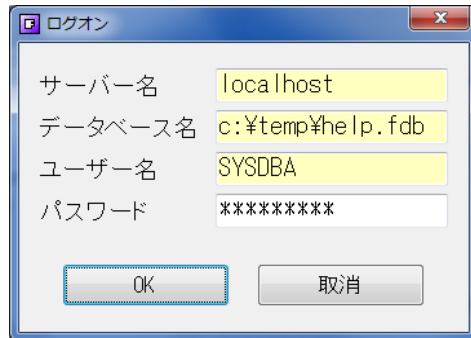
利用方法

1 起動

- ・ putF2E.exe をダブルクリックします。

2 ログオン

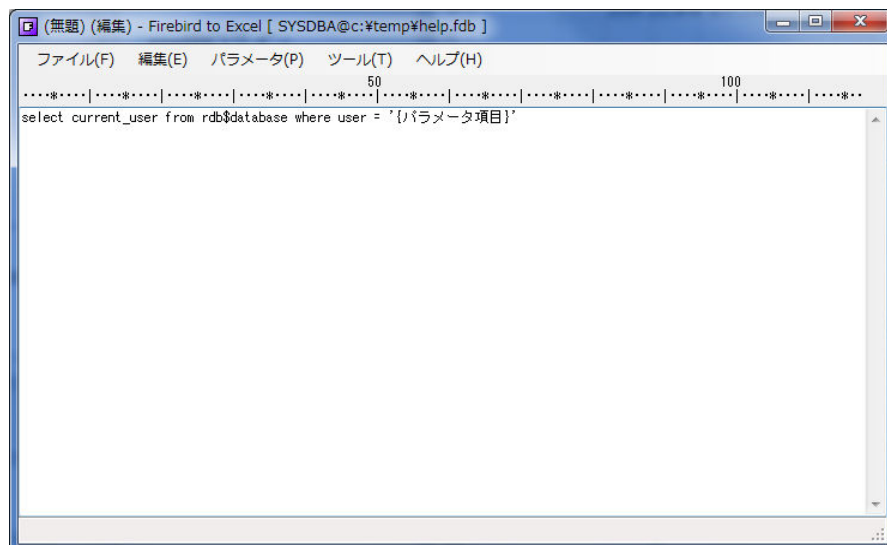
- ・ データベースへの接続条件を入力しログオンします。



- ・ パスワード以外の項目は、プログラム起動時に最後にログオンを行ったときの情報を初期値としてセットします。

3 SQL 編集

- ・ データベースからデータを抽出するための SQL を記述します。



- ・ 編集した SQL は保存・呼び出しができます。
拡張子は、.f2e です。
また、系列プログラムの sql (*2e) や、一般的な SQL (.sql) を指定しての読み込みも行えます。
- ・ SQL 中にはパラメータ項目を埋め込むことが出来、別画面によりパラメータを入力して指定することが出来ます。
パラメータ項目は、項目名を {} で囲みます。

利用方法

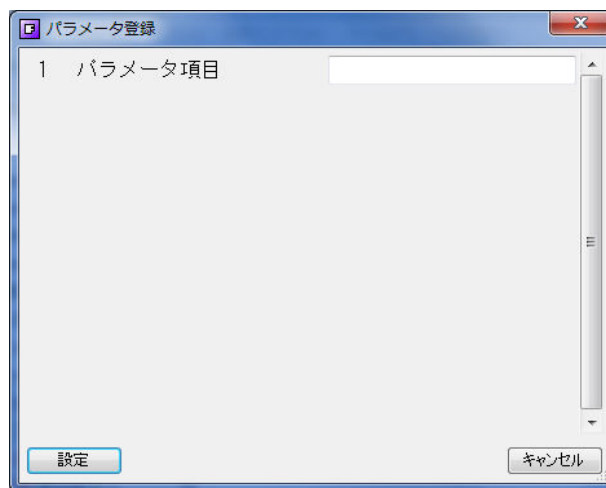
- ・ メニュー項目
 - ・ [ファイル] → [新規作成]
画面を初期化します。
 - ・ [ファイル] → [開く]
既存のファイルを開きます。
 - ・ [ファイル] → [上書き保存]
読み込んだSQLを編集後上書き保存します。
 - ・ [ファイル] → [名前を付けて保存]
編集したSQLに名前を付けて保存します。
 - ・ [ファイル] → [再ログオン]
ログオン画面を開きます。
 - ・ [ファイル] → [終了]
プログラムを終了します。
 - ・ [編集] → [元に戻す(一世代のみ)]
編集内容を直前の状態に戻します。
 - ・ [編集] → [全選択]
SQL編集エリア全体を選択します。
 - ・ [編集] → [切り取り]
選択範囲を切り取ります。
 - ・ [編集] → [コピー]
選択範囲をコピーします。
 - ・ [編集] → [貼り付け]
クリップボードの内容の文字列をSQL編集エリアに貼り付けます。
 - ・ [パラメータ] → [登録]
SQL中に埋め込んだパラメータに値をセットする画面を開きます。
 - ・ [パラメータ] → [編集]
前回値を保持してパラメータに値をセットする画面を開きます。
 - ・ [ツール] → [VBソース変換]
編集したSQLを、VB.netのソースに貼り付ける形式に編集します。
 - ・ [ツール] → [Excel出力]
SQLにより抽出した結果をExcelに出力します。
 - ・ [ツール] → [オプション設定]
プログラムが動作する設定を行います。
 - ・ [ヘルプ] → [目次]
インターネット上のヘルプファイル(当ファイルの最新)を開きます。
 - ・ [ヘルプ] → [ご意見・ご要望]
当プログラムサポート画面を開きます。
 - ・ [ヘルプ] → [バージョン情報]
バージョン情報画面を開きます。

利用方法

- ・ 右クリックメニュー項目
 - ・ [パラメータ挿入]
SQL中にパラメータを挿入します。
 - ・ [既存項目挿入]
SQL中に既存のパラメータを挿入する画面を開きます。

3 パラメータ登録

- ・ メニューから [パラメータ] → [登録] で開きます。



- ・ SQL中に埋め込んだパラメータ項目（{}で囲んだ文字列）に値をセットします。
- ・ パラメータ項目名は、{}で囲んでさえいれば何でもかまいません
また数量の上限はありません
- ・ SQL中に同一の項目名があれば単一の項目としてまとめます。
- ・ 項目名は画面内で50音順に並べて表示します。
- ・ 画面を開くたびに前回入力値を初期化します。
- ・ パラメータとして与える値は、抽出条件だけでなく、項目名・テーブル名など入力後の結果がSQLとして矛盾しなければ何でもかまいません

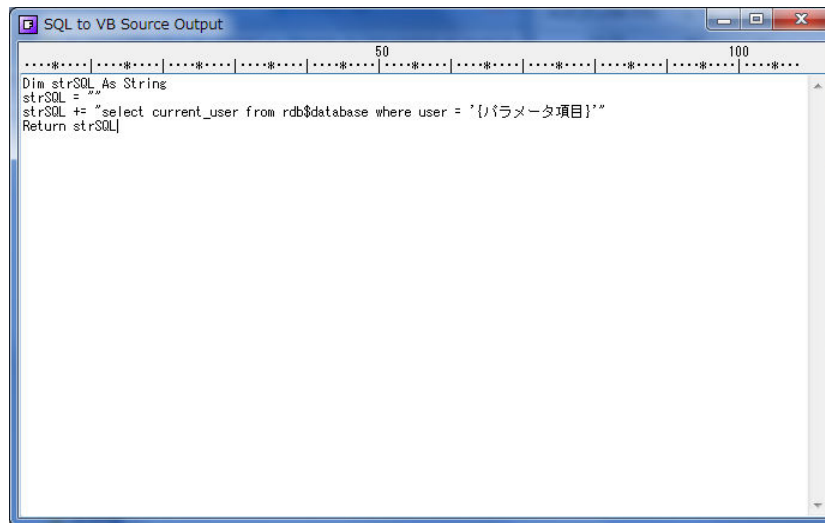
4 パラメータ編集

- ・ メニューから [パラメータ] → [編集] でパラメータ登録と同一の画面を開きます。
 - ・ 異なることは、画面を開く際に前回値を初期化しないことと、その為にパラメータ項目の増減を確認しないことで、前回パラメータ値入力後にパラメータ項目を追加した場合、SQLに矛盾が生じますのでお気をつけください
 - ・ 抽出条件を少しずつ変えながら抽出することを想定しています。

利用方法

5 VBソース変換

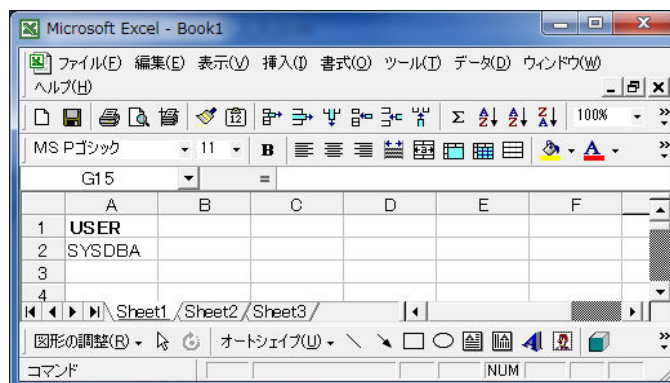
- ・メニューから [ツール] → [VBソース変換] で開きます。



- ・編集中のSQLを、そのままVB.netのソース中に貼り付けられるよう形成します。

6 Excel出力

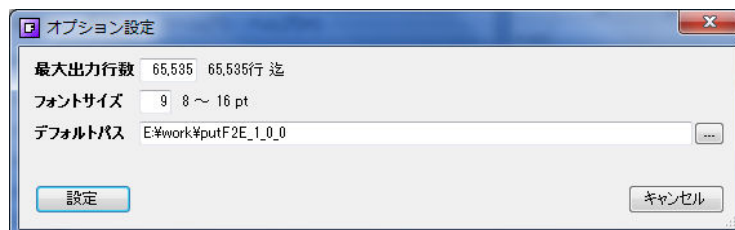
- ・メニューから [ツール] → [Excel出力] で実行します。



- ・抽出条件に該当するデータをExcelに出力します。
- ・オプション画面で指定する出力最大行数を上限とします。

7 オプション設定

- ・メニューから [ツール] → [オプション設定] で開きます。



- ・プログラムが動作する上での設定を行います。

利用方法

【 設定項目 】

- ・ 最大出力行数 Excel2003 までの上限の 65,535行を上限に出力上限行数を指定します。
65,536行ではないのは、タイトル行が必要だからです。
- ・ フォントサイズ SQL 編集画面とVBソース変換画面で表示するフォントサイズを指定します。
- ・ デフォルトパス 編集したSQLの読み書きを行うデフォルトのフォルダーを指定します。

8 具体的な利用方法について

次のページから利用例をご参照ください

http://techbee.web.fc2.com/help/putP2E_1_0/help_frame.html